

東京薬科大学新聞

発行所 東京薬科大学新聞会
責任者 村野哲雄

十月号

危うし!! 東薬生

1年男子前期警告者前年比150%

月日の経つのは早いもので後期の講義が始まってからもうすぐ一ヶ月が過ぎようとしている。皆さんは慣性に流されることなく勉学に励んでいるだろうか。だが例年の如く今年も各学年から出た多数の前期警告者が、アドバイザーの先生から喝を入れられた。近年度の警告者数の推移を左記のグラフで表してみたのでこれと合わせて各自考察してみてほしい。

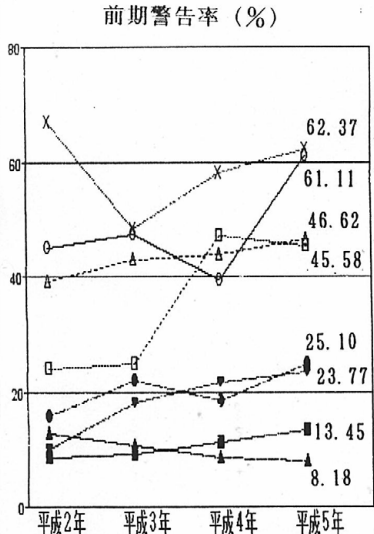
全体的に警告者数は増加の一途をたどっており、中でも一年男子の警告者数の大幅な増加が目につく。その警告率は驚くべきことに昨年度の一・五倍にもなっている。この割合は一科目でも評定がD以下になると警告を受けてしまう四年生の男子の警告者数の割合に匹敵している。いくら一年生が試験に不慣れであったとはいえ、この急激な警告者数の増加は異常とは言えないだろうか。一年女子における増加も考え合わせると、今年度から大幅に改訂された新カリキュラムの影響とも恐れられるかもしれない。

しかし糸川教授にお話を伺うと、カリキュラムの変更が直接の原因とは言えないと話された。大学側では特に対策を立てる予定はないらしい。まだ今年度の結果だけでは対策の立てようがないのが現状のようである。

しかし他学年を見ても警告者数は軒並み増加しており、今回減少したのは二年女子と三年男子のみである。だが、あくまで警告者が増えた原因は学生連自身にあるのであるから、大学やカリキュラムのせいだけにするのはどうだろうか。糸川教授は最近の学生からは講義を受けて「ただ教えられている」印象を受けると述べられた。大学は義務教育ではない。自分から物を学ぼうとする姿勢を作らない限りどうしようもないのである。

一方、男女別の観点でグラフを眺めてみると、大きな特徴を眺めとることが出来る。過去四年間のデータだけと比較しても、女子の警告者数の割合は男子のそれを遙かに下回るのだ。このことに対して教授は男子学生の奮起を期待している。しかしまた前期警告はあくまでも警告であるから学生は警告を受けたからといってあまり深刻に受けとめる必要はない。後期を頑張れば、取り返しがつくものもある。もちろん警告を受けた学生も気をゆるめてはならないだろう。

さらに教授は次のように話された。「学生に嫌な思いをさせるために警告を出すわけではない。これは自分の成績を知ってもらうための目安なのである。むしろこれは学校



側からのサービスなり、親心なりと受けとめて、ありがたく警告を頂戴してほしい。」

それにしても、前期の成績が不振だった学生の親元に警告の通知を出す大学というのも、随分珍しいのではないだろうか。親元への前期警告の通知がこの大学で開始されたのは、今から七、八年前のことである。留年になった学生たちの父兄が「自分たちの子どもが留年してしまうほど成績不振だったことがわからなかった。もっと早い時期に成績について知りたかった」と大学側に要望したためだという。

もう我々は大学生だというのが親元へ成績が通知されてしまつとは、まるで高校生並の扱

もうすぐ 体育祭

来る十月二十日(水)、学内グラウンドにおいて毎年恒例の体育祭が開催される。当日は合計十種目の競技が予定されている。また、雨天の場合は体育館においてバスケットボールを行う予定である。これに先立って主催の体育部門の部長である榎澤重幸さんに体育祭のPRをしていただいた。

「今日二十日に恒例の体育部門主催の体育祭が行われます。九時三十分開会式、熱い一日が始まります。十時に午前の部が始まります。「障害物競争」を皮切りに「棒引き(女子)」、「棒倒し(男子)」、「おなじみの競技で競つていただきます。そして新種目「二人三脚借り物競争(女子)」の登場です。二人三脚と借り物競争が一緒になった、ちょっと異色な競技です。そして午前の部を締めくくると「スウェーデンリレー予選」です。屋敷後一時二十五分から午

扱いを受けているようでもありますが、しかし警告者数の現状がこのようでは胸を張って抗議することはおろか、逆にぶがいなきを問ひ詰めるものが落ちてはならないだろう。ところで薬剤師国家試験において必要に応じて緩やかな減少の傾向にあり、最低ラインとまで言われた九〇%さえも平成三年以降からは下回っている。糸川教授の言われるところによれば、国家試験は「Minimum Requirement (最低限度の要求)」にすぎないという。つまり国家試験レベルの知識は薬学生が当然持っているべきの部が始まりです。最初は後々の登場「綱引き」です。続いてこれをなくして体育祭は語れない、毎年恒例の「恋人探し」です。男女仲良くなたた後は男同士で闘つていただきます。そして「騎馬戦(男子)」、「研究室対抗リレー」、「チーム対抗リレー」、「スウェーデンリレー決勝」と続きます。普段あまり運動をしない人も、もうハットハットになってしまつた人も最後の力をふりしぼつて下さい。

院試結果

この度、平成六年度大学院修士課程の入試結果が発表された。今回の志願者数及び合格者数は次の通りである。

薬学専攻
志願者数：一一一名
合格者数：五五名 (九名)

医療薬学専攻
志願者数：三三名
合格者数：二〇名 (七名)

合格率：六二・五%

きものであるから、東薬生ならそれよりも上のレベルを目指してほしいということなのである。我々学生がまことに耳が痛くなる忠告である。

警告者数の増加も合格率の減少も、時代の流れであるといえはそれまでだが、ただ照つて見過ごすわけにはいかな問題である。そろそろ学生それぞれが意識革命をする必要性がある時期ではないだろうか。大学での日頃の勉強の積み重ねがなされてないと、国家試験合格への道りは遠く険しいものとなる。大学での成績で警告を受けるくらいならまだいい。しかし、国家試験には「警告」などないの

のレースの結果によつては逆転のチャンスも。まだまだ体育祭は終わりはせん。最後のしめくくりは「〇×クイズ」です。知恵と勘をふりしぼつて豪華商品をねらつていただきます。皆さん、奮つて御参加下さい。全ての競技が終了した後は四時十分閉会式、表彰式となります。最初から最後までハラハラドキドキの一日を楽しんで下さい。

全体の合格率
今回：五二・四%
前回：五四・七%

なお、社会人受験者や他大学からの受験者は医療薬学専攻に七名、うち合格者は二名であった。

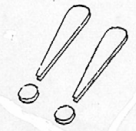
最近とみに大学院受験者が増えている。自分が本当に興味深いと感じる分野を見いだし、それを研究しながら生活できるということは素晴らしいことだ。大学院はその機会を十分に与えてくれる場所であり、院の優れた研究は我々の励みにもなる。進学された方々の今後の活躍を期待したい。

薬味

あつという間に夏がすぎ、秋の色がしだいに深まってきた。夏といつても今年は冷夏となり、「なつたな日」と実感することができた日は指で数えられるほどだった。★この夏の異常気象は、日本各地に被害をもたらした。九州では度重なる集中豪雨によつて、多くの人が犠牲になった。また台風と冷夏の影響で、米の収穫量は前年を大きく下回つた★今さら言うまでもないが、米は私たち日本人の主食となる穀物だ。その米が足りないというので、様々な社会問題が発生している★例えば九月に入つてからの米泥棒の件数は二百件を越えることでは決して許されることではない★米泥棒は農家の嫌われ者だが、逆に農家に歓迎される違法者がいる。ヤミ米ブローカーだ。彼らは農家から政府米よりも高い値段で米を買い付ける。農家としては少しは高く買ってくれる方に米を売りたいだろう★このまま全ての米がブローカーに流れればどうなるのだろうか。恐らく米の値段が高騰し、流通に偏りが生じるだろう。そこから生じる消費者へのメリットは、ほぼ皆無と言っていい★冷夏の影響はこれだけではない。海水浴場を中心とする観光地では軒並み客足が遠のいた。またこの夏の不景気からの脱出を目指していた電器業界でも、少なからず打撃を受けた。もし今年の冬も暖冬になれば、目も当てられないだろう★ここまで異常気象が日本に与えた社会的影響について述べてきたが、みなさんはどのようにお考えだろうか。ぜひ学生課前の御意見を期待したい。ご意見をお聞かせ願いたい。(草風)

秒読み開始!

東葉祭



十一月三日(祝)から五日(金)まで三日間にわたって東葉祭が開催される。今回のテーマは「ゼロからの飛躍」で、趣向を凝らした様々なイベントが企画されている。

まず文化の日にあたる第一日目は多くの一般客の訪れが予想され、講演会、音楽祭などの多彩な企画が準備されている。講演者は元西武ビッパチヤーの東尾修氏。現在プロ野球解説等で活躍中の彼がどんな講演を行ってくれるのかは楽しみなどころである。そして今回の東葉祭の目玉である音楽祭は本学体育館にて開催される。今年のゲストは「大事MANブラザーズバンド」。

今年の夏を語るとしたら、冷夏のことを語らざるにはならない。記録的な冷夏は生物の世界にも影響を与えている。セミの「初鳴き」が各地で観測史上最も遅い記録となった。一方、秋の花のヤマハギやススキの開花が平年より大幅に早まっている。

奏が午前十一時三十分より行われる。二日目は公開実験と中夜祭が予定されている。公開実験は第一衛生化学教室の「酸素は毒だ」と、第二分析化学教室の「身のまわりの微量物質を測ろう」というテーマで午後一時より二六二実習室にて行われる。中夜祭の内容については現在企画検討中とのことだが、午後四時三十分よりコミプラで開催される。

最終日の五日には薬学セミナーが開かれる。講義の内容は、臨床生化学教室の須賀哲弥教授による「モノ・リザは心筋梗塞だった?」高橋と「コレステロール」と、第一衛生化学教室の糸川秀治教授による「自然界に薬のルーツを求めて」。両講義とも非常に興味深いテーマで、「秋はやはり勉強にイそしみたい」という人にはおすすりである。

この他にも東葉祭期間中はアマチュアバンドによる演奏が午前十一時三十分より行われる。東葉祭は毎日午前四時から午後四時まで一般公開され、コミプラのDJも連日午前十時から午後四時まで行われる。SETやSOTなどの本部企画や、各クラブ・各団体による出し物も楽しみなどころである。

つたそうだが、降水量は台風の影響もあり、平年の二百二十%にまで達し、また農作物には欠かせない日照時間も平年の六十七%にとどまった。低気温は歴代四位、降水量は三位、日照不足は二位の記録である。

冷夏とキャベツ

スパーの中には野菜の価格高騰に対応して、キャベツを四分の一で切り売りする方法を取り入れた。安い海外

話題作「ジュラシック・パーク」を観た。先日も今までトップだった「E.T.」の興業収入を抜いたが話題になったが、確かにそれだけ人気になるのが納得できる作品だった。言葉で説明できる凄さではないというのが知人と一致した意見である。また上映している所がまだ、ぜひ観に行くことをお勧めする。

十月に入り、こうした様々な企画・運営を支える東葉祭運営委員会の活動もこれまでに以上に入力してきている。

そこで、東葉祭運営委員会の武右大臣委員長に今年の東葉祭への意気込みを伺ってみた。「今年は今まで四日間で行われてきた東葉祭を三日間で行ったり、体育館で行われてきた後夜祭ダンスパーティーをコミプラで行う等、今までは一味違ったものになると思えます。これらの結果が吉と出るか凶と出るかは分かりませんが、すばらしいものにしてあげます。スタッフ一同が力を合わせて作った東葉祭。

産の野菜を緊急輸入し、店頭と並べているところもある。成田空港では、オーストラリア、インドネシア、タイなどからの輸入野菜の取扱いが急増し、前年同期の三倍に達している。しかしこのように冷夏の時だけ大幅に輸入し、冷夏でなくなったら輸入を大きく削減

吸った血液から恐竜のDNAを取り出し、コンピュータを使って修復している。そうした緻密な科学操作のように、ジュラシック・パークには完璧なシステムが敷かれていたはずだ。にも関わらずそれは恐竜達に破られ

「ジュラシック・パーク」はあの後、恐竜達がどうなるかが非常に気になる終わり方だった。続編は今のところ未定らしい。続編は今の恐竜のように進化した人間が考えるべきことを、スティヴン・スピルバーグは再び示してくれるのだろうか。

つてこそその東葉祭である。より充実したものとして成功させるためにも多くの学生の参加を期待したい。

下宿生は野菜不足になりがちなのに、このまま野菜の高値が続くと、さらに野菜が食卓にのぼらなくなる。今年のよな年は昔なら大飢饉になっていたであろう。それでも昔の人は何とか乗り越えてきたのである。多少の手間はかかるが、干し野菜(切り干し大根など)や冷凍野菜を使ってみてはどうだろうか。昔の人が考えたものを利用するのも悪くはないのではないかと

「スポーツの秋」にあざわしい快適な気候の中、第一試合がスタートした。参加チームは、映研、ギターアンサンブル、軽音楽部、ジャズ研究会、ハルモニオ管弦楽団A、ハルモニオ管弦楽団B、文化部門の七チームである。各自日頃のストレスを発散し、心地よい汗を流した。好プレー、珍プレーの続出で、大会は大いに盛り上がりを見せた。六戦全勝の軽音楽部が優勝し、大会は終わった。

あなたと越えたい、天城越え。(ひかりも)新聞作りはいつもさっさと終わらせたいと思うのだが、そうだった試しがない。という編集後期をいつも書いてきたが、今回もやはりそうだった。(渡鳥)全今日は雨。あしたは休み。折角の午後が、私の自由か。何故にこうも濡れるのか。こうなったら、会長は必ずや他人にさせるぞ。(望月)

部室棟コピー機廃止!

すでに掲示が出されているが、九月二十二日の自治委員会が部室棟一階のコピー機の廃止が決定された。理由は現在の印刷室が新歓祭実行委員会の部室になるため、コピー機の置き場所がなくなったからである。部室棟

「スポーツの秋」にあざわしい快適な気候の中、第一試合がスタートした。参加チームは、映研、ギターアンサンブル、軽音楽部、ジャズ研究会、ハルモニオ管弦楽団A、ハルモニオ管弦楽団B、文化部門の七チームである。各自日頃のストレスを発散し、心地よい汗を流した。好プレー、珍プレーの続出で、大会は大いに盛り上がりを見せた。六戦全勝の軽音楽部が優勝し、大会は終わった。

行事予定

十月
二十日(水) 体育祭
十一月
二日(火) 東葉祭準備日
三日(祝) 東葉祭
五日(金) 東葉祭
六日(土) 創立記念日

「ジュラシック・パーク」はあの後、恐竜達がどうなるかが非常に気になる終わり方だった。続編は今のところ未定らしい。続編は今の恐竜のように進化した人間が考えるべきことを、スティヴン・スピルバーグは再び示してくれるのだろうか。

つてこそその東葉祭である。より充実したものとして成功させるためにも多くの学生の参加を期待したい。

編集後記

先k先輩アドバイスありがとうございました。今回は何回も直しを出されてしまいました。(目)

「スポーツの秋」にあざわしい快適な気候の中、第一試合がスタートした。参加チームは、映研、ギターアンサンブル、軽音楽部、ジャズ研究会、ハルモニオ管弦楽団A、ハルモニオ管弦楽団B、文化部門の七チームである。各自日頃のストレスを発散し、心地よい汗を流した。好プレー、珍プレーの続出で、大会は大いに盛り上がりを見せた。六戦全勝の軽音楽部が優勝し、大会は終わった。

あなたと越えたい、天城越え。(ひかりも)新聞作りはいつもさっさと終わらせたいと思うのだが、そうだった試しがない。という編集後期をいつも書いてきたが、今回もやはりそうだった。(渡鳥)全今日は雨。あしたは休み。折角の午後が、私の自由か。何故にこうも濡れるのか。こうなったら、会長は必ずや他人にさせるぞ。(望月)